

教育研究業績書

2023年05月08日

所属：看護学科

資格：教授

氏名：川端 京子

研究分野	研究内容のキーワード
看護学	臨床看護、慢性期看護、慢性腎不全、糖尿病合併症、がん化学療法
学位	最終学歴
看護学博士	千葉大学大学院看護学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. がん患者や慢性疾患患者自身が病とともに生きることを学生に理解してもらうための取り組み	2016年04月現在2019年01月	がん患者の治療による有害事象の状況や心理的影響について、ドキュメント番組や患者のブログなど多様に利用し、学生が理解しやすいように努めている。に、
2 作成した教科書、教材		
1. 理解しやすい視聴覚教材の作成	2016年04月現在	講義では、学生が疾患の病態や生理学的状況の興味が高まるように、デジカメによる教材の作成、容易に解説している番組録画やインターネットなども利用しながら、視覚に効果的な講義を展開している。また、必ず授業後復習として自己体験課題を毎回実施し、再度自分で体験することで、患者が生活で自己管理する難しさを感じ、患者に共感できるような取り組みを行い、臨床実習で役立つ内容にしている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大阪がん化学療法コンソーシアム	2008年05月～現在2019年1月	大阪のがん化学療法認定看護師とともに、がん化学療法を受ける患者のサポートを目的に、勉強会、講演など様々な企画運営を実施している。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 看護師免許	2016年04月～現在2019年01月	成人看護学1A, 成人看護学1B, サポート型・ケア、成人看護学実習（慢性期）、統合看護実習、卒業演習
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 疾患理解とケアプランのための看護過程セミナー3	共	2004年3月	医学芸術社	本人担当部分：糖尿病性腎症患者の看護（p.152-165）糖尿病性腎症患者の病態生理、情報収集、アセスメントの視点、条件が変わる場合のアセスメントの違い、関連図、看護問題とその根拠、看護計画などに至るプロセスを記載した。 編者：吉沢理 共著者名：中野栄子、川端京子、森菊子、田村文子、石井真紀子、田村綾子、福島裕子 他22名
2. ナースのための透析ハンドブック（改訂4版）	共	2015年7月	医業ジャーナル	透析に携わる看護職者を対象とした透析治療および看護に関する専門書である。 本人担当部分：「よく受ける質問Q&Aの1）～7）」（p.188-194） 編者：三木隆己、白井みどり 共著者名：秋澤忠雄、石村栄治、田畑勉、渥美義仁、佐藤久光、堀川直史、川端京子、他36名
2 学位論文				
1. 糖尿病性腎症透析患者に対する下肢壊疽予防ケアの開発に関	単	2006年3月	千葉大学大学院	糖尿病性腎症透析患者の下肢壊疽予防のために、考案した炭酸入浴剤による高濃度炭酸泉足浴が、1) 下肢皮膚血流促進効果を検証し、2) 糖尿病性腎症透析患者自身が簡易でセルフケアできる方法と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2 学位論文				
<p>する研究</p> <p>ー炭酸入浴剤を用いて考案した高濃度炭酸泉足浴の下肢皮膚血流促進効果の検証ー</p>				して開発した。
3 学術論文				
1. 血液透析患者の自己管理行動および自己効力感に影響を及ぼす因子	共	1998年8月	日本生理人類学会誌 第3巻3号p.1-8	透析患者の食事・水分・服薬の自己管理行動や自己効力感に関連する要因を明らかにするために、透析患者144名に質問紙法によって調査した。その結果、有効回答88名において、自己管理行動を促進する要因は第一に透析管理の自己効力感が高いことであった。その他、女性であること、透析知識の点数が低いこと、家族のセルフケアの認知度が高いことであった。 共著者名：川端京子、石田宣子、岡美智代
2. 糖尿病性腎症透析患者における考案した炭酸泉浴剤足浴の継続性、セルフケアに関する検証	単	2006年12月	日本腎不全看護学会誌 8巻(2) p.65-70	糖尿病性腎症透析患者の下肢壊疽を予防するために、考案した炭酸入浴剤を用いた足浴を家で、継続的にセルフケアできる方法であるかを検証した。患者3名に1ヶ月間、毎日、家で考案した炭酸泉浴剤足浴を実施依頼し、足の皮膚状態、足浴実施状況や主観的效果を観察、聞き取り、評価した結果、継続的に簡便な方法でセルフケア可能であり、実施後保温感、関節可動域の拡大、皮膚の潤い感など効果が見られた。
3. 糖尿病性腎症透析患者への炭酸泉浴剤足浴の効果	単	2007年12月	臨床看護 第33巻14号 p.2153-2159	糖尿病足病変を予防するためのケア開発の基礎研究として、糖尿病性腎症透析患者に炭酸泉浴剤、装置、湯の3種類足浴実施、下肢皮膚血流や皮膚温度を比較し、下肢皮膚血流量を促進する効果を検証する実験を実施した。その結果、炭酸泉浴剤足浴は皮膚血流量増加がみられ、下肢皮膚微小循環改善効果が示唆された。
4. 炭酸線浴剤足浴の1ヶ月継続実施効果ーtcP02と主観的效果への影響ー	単	2009年5月	日本フットケア学会誌 Vol17, No1. p43-48	糖尿病足病変を予防するためのケア開発の基礎研究として、糖尿病性腎症透析患者に炭酸泉浴剤、装置、湯の3種類足浴実施、下肢皮膚血流や皮膚温度を比較し、下肢皮膚血流量を促進する効果を検証する実験を実施した。その結果、炭酸泉浴剤足浴は皮膚血流量増加がみられ、下肢皮膚微小循環改善効果が示唆された
5. 癌化学療法による下肢末梢神経障害に対する緩和方法の検討ー炭酸泉足浴と牛車腎気丸投与の効果ー	共	2014年12月	日本フットケア学会雑誌 Vo1.12, NO.4, p145-150	抗癌剤Paclitaxelは末梢神経障害を高頻度に発症させるため、高濃度炭酸泉足浴または牛車腎気丸の予防投与による末梢神経障害緩和効果を検討した。川端京子、中野妙子、堤淳子、川尻成美、高島勉
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 「人工炭酸入浴剤を用いて作成した炭酸泉浴剤足浴の継続効果	単	2007年6月	第52回日本透析医学会学術集会 「糖尿病性腎症透析患者のフットケアの現状と効果」のシンポジウム (大阪国際会議場)	第52回日本透析医学会で、看護介入の視点で、現在までの研究成果「人工炭酸入浴剤を用いて作成した炭酸泉浴剤足浴の継続効果」をシンポジストとして講演し、透析の医療関係者にフットケアの重要性を啓蒙した。
2. 糖尿病性腎症患者の看護	単	2010年11月	第13回日本腎不全看護学会(福岡国際会議場)	第13回日本腎不全看護学会教育セミナー「糖尿病性腎症患者の看護」の講師を依頼され、実践的な援助について講演した。
3. 糖尿病患者の足浴の効果ー炭酸泉浴剤足浴と湯足浴の効果の検討ー	単	2014年2月	第12回徳島透析フットケア研究会(ホテルクレメント徳島)	現在の透析患者の下肢潰瘍・壊疽の要因と、科研の研究結果を踏まえて、「糖尿病患者の足浴の効果ー炭酸泉浴剤足浴と湯足浴の効果の検討ー」の講演を行い、透析の医療関係者にフットケアの重要性とその効果を啓蒙した。
2. 学会発表				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
1. 人工炭酸入浴剤を用いて作成した炭酸泉浴剤足浴の継続効果	共	2007年6月	第52回日本透析医学会学術集会 (大阪国際会議場)	糖尿病性腎症透析患者下肢壊疽を予防するために、考案した炭酸入浴剤を用いた足浴を、家で継続的にセルフケアできる方法であるかを検証した。 共同発表者：川端京子、川端京子、金昌雄、宮崎えみ子
2. 糖尿病患者の炭酸泉浴剤足浴と湯足浴の有用性の比較-3ヶ月間継続実施の皮膚血流と主観的効果の比較-	共	2010年12月	第30回日本看護科学学会 (札幌コンベンションセンター)	糖尿病患者の足病変予防のために、人工炭酸足浴剤と湯のみの足浴をランダムに割り当て、各15名(計30名)に3ヶ月間、セルフケアで実施し、2次元血流計による足部皮膚血流への影響と主観的効果を比較検討した。 共同発表者：川端京子、正木治恵、江尻加奈子
3. 糖尿病患者に対する足浴の有用性 - 足浴継続実施後の足部皮膚状況と主観的効果の検討 -	共	2012年3月	第10回日本フットケア学会(大阪国際会議場)	糖尿病足病変予防のために、湯足浴当て15名に3ヶ月間セルフケアで継続実施し、両踵部の皮膚症状を比較検討した。共同発表者川端京子、江尻加奈子、中西健史
4. Paclitaxelの末梢神経障害緩和の検討 - 3ヶ月間牛車腎気丸投与または炭酸泉浴実施の効果 -	共	2012年10月	第50回日本癌治療学会 (横浜パシフィコ横浜)	乳癌患者にPaclitaxelの有害事象である末梢神経障害を緩和するために、支持療法として、3ヶ月間、牛車腎気丸投与または炭酸泉足浴手浴実施を、ランダムに割り当て実施し、その効果を比較した。 共同発表者：川端京子、中野妙子、川尻成美、高島勉
5. 牛車腎気丸または炭酸泉浴によるPaclitaxelに関連末梢神経障害の軽減効果について検討	共	2013年8月	第11回日本臨床腫瘍学会 (仙台コンベンションセンター)	乳癌化学療法Paclitaxelによる末梢神経障害を緩和するために、3ヶ月間、牛車腎気丸投与または炭酸泉足浴手浴実施にランダムに割り当て実施し、その効果を比較した。 共同発表者：川端京子、中野妙子、川尻成美、高島勉
6. 外来化学療法中の患者に対するがん性疼痛と疼痛ケアの検討	共	2014年8月	第52回日本癌治療学会(パシフィコ横浜)	外来で化学療法を受けているがん患者のがん性疼痛状況や使用している鎮痛剤、生活への影響、疼痛治療の満足度について質問調査を行い、がん性疼痛とそのケアの現状を検討した。 共同発表者：川端京子、吉村成央、中野妙子、堤敦子、工藤貴子、高島勉
7. 外来化学療法中の患者におけるがん性疼痛治療に対する満足度の評価	共	2015年7月	第13回日本臨床腫瘍学会(札幌市教育文化会館)	緩和ケアをがん薬物治療早期に実施することで、がん患者の苦痛や不安が軽減し、治療成績が向上することが報告されている。そこで、外来化学療法中のがん患者に質問紙を用いて、疼痛・治療・その満足度を調査し、検討した。 共同発表者：川端京子、吉村成央、中野妙子、堤敦子、工藤貴子、高島勉
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 透析患者の透析時の下肢筋痙攣の実態調査と効果の検討	単	1997年4月	笹川医学医療研究財団助成金(研究代表者)	
2. 糖尿病性腎症患者の透析時温電法による下肢壊疽予防ケアの		2000年4月～2003	文部省科学研究費補助金(基盤研究C)研究代表者	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

6. 研究費の取得状況				
開発 3. 糖尿病性腎症透析患者の炭酸入浴剤足浴による下肢壊疽予防ケアの開発 4. 糖尿病性足病変予防のためのバブ足浴の有用性に関するランダム比較対照試験 5. 抗がん剤による末梢神経障害を緩和するケアの開発ーバブ足浴手浴の有用性の検討ー 6. 静脈留置針の点滴静脈内注射シミュレータの開発とそのシミュレーション研修システムの確立 7. 塩分チェックシートと、半定量ソルトペーパー法を用いた随時尿中食塩排泄量チェックによるセルフケアモニタリングの減塩の有用性	共 共	2004年4月～2007 2007年4月～2009 2010年4月～2013 2010年4月 2014年6月	文部省科学研究費補助金（基盤研究C）研究代表者 科学研究費補助金（基盤研究C）（研究代表者） 科学研究費補助金（基盤研究C）研究代表者 2009年度池銀コンソーシアム研究開発助成金 腎疾患研究助成（公益財団法人大阪腎臓バンク）研究代表者	

学会及び社会における活動等

年月日	事項
-----	----